

羽津小だより

2011. 6. 8 (水) No. 4

交通安全教室を開催！



梅雨空の合間とも言える6日(月)、3名の四日市市交通安全教育指導員の方をお招きし、交通安全教室を開催いたしました。

1・2年生の低学年は、運動場で正しい自転車の乗り方について指導を受けました。ヘルメットを持っている児童は、家から持って来てかぶったの練習。自転車は、保護者の皆様にご協力をいただき学校まで持ってきていただきました。

2限目、1年生。普段の乗り方ができます。指導員の方に教えられながら、ちょっと緊張気味。3限目は2年生が同様に指導を受けました。

羽津地区では、昨年度、青少年育成協議会が交通安全教室を実施し、多くの子どもたちが喜んで参加しています。終了時には自転車運転免許証をいただきました。別名2丁目では、毎年、

独自に交通安全教室を実施していると聞いております。いろんな形で、子どもたちを交通事故から守ろうと一生懸命です。

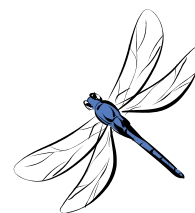
しかし、昨年は自転車と自動車による事故も数件起こっています。救急車で運ばれた事案もありました。幸い大きなけがにならずに済みましたが、一つ間違えれば命にかかわることです。学校での指導も繰り返しおこなっておりますが、時々、自転車の乗り方については、お叱りの電話をいただくこともあります。

当然ながら、子どもたち自身が自らの命を守ろうとする気持ちを持たなければなりません。同時に、家庭、学校、地域が一体となって、子どもを交通事故から守っていく取り組みを根気よくやっていくことが大切だと思います。共に力を合わせていきましょう。

「ひやり」とする自転車の乗り方

- ★ 学校の門からの飛び出し
(遊びや少年団活動後の帰宅時)
- ★ 十字路・T字路での飛び出し
- ★ 下り坂でのスピードの出しすぎ
(直ぐに止まらない)
- ★ しゃべりながらの並列走行

間もなく プール開き (水泳の授業が開始！)



プール開きは、6月13日 月曜日の予定です。

それにともない、恒例の6年生によるプール清掃が3日(金)に行われました。水着に着替えプール槽を洗うグループやプールサイド、通路、更衣室等を綺麗にするグループに分かれ一生懸命、そして、楽しく行われました。後は、プール開きを待つのみ。

「神様のプレゼント」

プール開放が終了すると、プールは消防用水として水を溜めておくことに決められています。清掃のため、プールの水を抜くと、底には2種類のヤゴがいっぱいいました。どんなトンボになるのか、飼ってトンボまで育てたいと希望するが学級にプレゼントされました。さて、何トンボになるのでしょうか？

ヤゴを育てるのは難しいです。一番難しいのは、えさです。生きているものでないと食べません。子どもたちは、考え、悩みながらトンボとして飛び立つ日を楽しみにしています。大切な学習になることと思います。



校長室から

3月11日に発生した「東日本大震災」は、東北3県の被災地はもとより、日本中、世界中に大きな影響を与えています。ここ羽津地区にも被災地と深くかかわる方々がたくさんみえます。子どもたちも、今回の大震災で様々なことを考え、学んでいます。5年3組の学級通信にこんな記事がみられました。ご紹介します。

生活ノートから

『幸せってなんだろう』 山尾 虎太郎

「もうすぐ地震がきます。」3月11日地震があった。東北で地震があった。そのときは、そんなに大きな地震とは知らなかった。家にかえってテレビを見た。どのチャンネルも地震のことばかりだ。そのニュースには、ぼくと同じぐらいの小学生がなくなったり、助かって家族がなくなったり、家が流されたりして、見ていてつらくなるニュースがたくさんあった。

ぼくは、考えた。死んでしまったら、学校へいくこともできない。でも、助かって大切な家族や大事にしていたものがなくなったらすごく悲しい気持ちになる。もし、ぼくだったら、これからどうやっていけばいいのか不安になる。

ぼくは、幸せだと思った。でも、本当のことを言うと、おいしい物を食べたときやほしい物が手に入ったときは、幸せだと思っていた。

ぼくが、毎日家族とご飯を食べて、学校に行き、勉強して友達と遊ぶこと、お姉ちゃんとけんかすることも幸せなことだと思う。

ぼくは、お母さんとぼくが幸せと思うことを話し合った。お母さんは、「幸せって、毎日あたりまえで、それが幸せだと気づかないのが幸せなのかもしれないね。」と言った。

地震はどこで起きてても不思議じゃないとニュースでいっていた。だから、地震で幸せをうばわれたのは、ぼくだったかもしれない。

ぼくは、幸せに感謝して毎日いろんなことをがんばろうと思う。死んでしまったぼくぐらいの子の分まで。そして、地震で被害にあった人たちの役に立てるように。

※

ニュースで観ました。小学生の子が、近所のお年寄りのために避難所から食料を配達する姿を。また、避難所とお風呂のある所を結ぶバスの誘導をする小学生の姿を。けっして、人に言われしているのではなく、自分の意思でやっている姿がありました。厳しい状況の中で、子どもたちは自立し、しっかり前を向いて生きようとする力を持っていることを証明してくれたように思います。

さて、この生活ノートの中で、

お母さんとぼくが幸せと思うことを話し合った。とありました。

素敵なお母さんの会話の中で、子どもの心が耕され、豊かに、豊かに育っていると感じられます。心が豊かになる生活ノートをありがとう！